

平成二十八年度古文書講座前期 解答

※読点、返り点は適宜記した。

☆王政 御一新ニ付 御高札面ハ勿論、追々

御布告之趣、自今以後被ニ 仰出ニ候

御旨趣堅可ニ相守ニ事、

①一、跡式之儀者、兼而書置いたし、村役人五人組

立会加判いたし、死後に出入無レ之様可レ致事、

附り、跡目無レ之不慮ニ死去候ハ、所持之品々

村役人五人組立会相改可レ申事、

②一、婿嫁養子取組之儀、村役人五人組立会

能々入念、重而六ヶ敷義無レ之様可レ致事、

③一、独身之男女、長病相煩耕作成兼候もの者、

五人組申合助力いたし、田畑荒し不レ申候様

可レ致事、

④一、倒死候もの有レ之節ハ役人立会死骸雜物等

相改、死骸其所を不レ替番人付置、早速注進

可レ致、尤尋来候者有レ之ハ、出所等承届、是

又可ニ申出ニ事、

⑤一、用水之儀、先規之例を以て兼而相定置、出水

之節争論無レ之様可レ致者勿論、出水之節

村役人初惣百姓速ニ出張、堤川除井堰

溜池等切レ不レ申様精々防方手当いたし、

平常迎も無ニ油断ニ心付ケ、普請所不レ及ニ大

破ニ候様可レ致事、

⑥一、川之堤防其外普請之儀、総而永世之為

方第一ニいたし、見分而已を取繕ひ候様なる

如何之儀有レ之間敷事、

⑦一、毎年御年貢割付出し候ハ、惣百姓并

入作之もの迄疑念を生し不レ申候様ニ為レ致ニ

披見ニ、無ニ相違ニ様割合いたし可レ申候、尤御年貢

皆済無_レ之以前、米穀他所江差出し候儀
決而不_二相成_一候事、

附り、御年貢米金村役人受取手形
取かはせ置、重而出入無_レ之様可_レ致事、

⑧一、御用船御年貢米積船等ハ勿論、総之

難船有_レ之節者、近辺之者共早速_二駆付精々
相働救助いたし、人命ハ勿論、荷物迄紛失
無_レ之様可_レ致事、

⑨一、往還之道橋ハ不_レ及_レ申、脇道_二而も常々無_二

油断_二繕_レ之、人馬通路無_二難儀_一様可_レ致、もし

往還通り並木風折等有_レ之節者、差向

通行さハリ_二不_二相成_一様致し置、早速其旨
注進可_二申出_一事、

⑩一、東京并何方江用事有_レ之罷出候共、其事

相済次第早速罷帰候様いたし、無益之
長逗留不_二相成_一候事、

⑪一、邪宗門之義ハ 御制禁之条、不審成

者有_レ之候ハ、速_二可_二申出_一、若隱置後日顕る_二
おいてハ、五人組ハ不_レ及_レ申、村役人共迄嚴重
可_二申付_一事、

⑫一、在々ニ而能、相撲、操り狂言、芝居其外諸

見世物類猥に不_二相成_一、売女、歌舞妓、好色
類ハ停止勿論之事、

⑬一、博奕賭之諸勝負一切可_レ為_二停止_一、尤宿堅

いたす間敷、若於_二相違_一者嚴重可_二申付_一事、

⑭一、火之元之義ハ五人組常々相互ニ心を付ケ大切

にいたし可_レ申、自然村中ハ勿論近村たり共
出火之節ハ速に駆付ケ、精々相働火を消シ
可_レ申事、

⑮一、喧嘩口論有_レ之節ハ聞付次第出合取押へ

可_レ申、人を殺し立退候もの有_レ之節ハ押へ置可_二注進_一、若取逃し候ハ、跡を慕ひ落着所迄見届預ケ置可_二注進_一、他所より手負候もの来候ハ、村役人立会介抱致し置、早速可_二申出_一事、

⑩一、堂宮山林に怪敷もの徘徊無_レ之様常々

可_レ致_二吟味_一、郷中ニ而も如_二従来_一番人差置、不審なるもの有_レ之候ハ、差押へ可_レ申、自然盜賊入候ハ、兼而村々手筈申含置、番人ハ勿論、所之者共不_レ残駆付ケ捕押へ可_レ申、不_二出会_一ものハ可_レ為_二越度_一事、

附り、盜賊捕押へ候節、猥ニ打殺し不_レ申候様、精々心かけ可_レ申事、

⑪一、捨馬之儀致す間敷候、自然はなれ牛馬

有_レ之候ハ、村役人立会養置、其旨可_二申出_一事、

⑫一、名主組頭印形替り候ハ、印鑑を以て可_二申出_一、其外之ものハ名主方迄印鑑出し置可_レ申事、

附、印判平日村役人江預ケ置候儀ハ不_二相成_一候事、

⑬一、村々五人組を最寄次第五軒宛組合、借地、

店借、社寺、門前、下人等ニ至迄諸事相互ニ申合吟味いたし、悪事無_レ之様年日相心得可_レ申候事、